10 月のおたより

1966 年、3 姉妹の長女として生まれた林（はやし）　恭子（きょうこ）さんは、転勤族のサラリーマン家庭で育ち,常に転校生で「ふるさと」がなく、いわゆる真面目な「良い子」タイプの女の子でした。

16 歳のときに不登校になり、自宅にひきこもるようになりましたが、「それは土の中に生き埋めにされているかのような 20 年間だった」と、自身のひきこもり経験を振り返っています。かすかな光が見えてきたのは、あるイベントで知り合った女性に誘われて,「ひきこもりについて考える会」に初参加した 1999 年のこと。参加者同士が自分の体験を語り合うことで、徐々に積極的な発言ができるようになっていきました。 その集いには、後に結婚相手となる男性とのめぐり逢いもありました。彼は、自己肯定感を持てないままひきこもり生活を続けていましたが、ある日ネットに掲載された林さんの手記を読み、自分と似た境遇の人がいると興味を持ち、会に参加してみました。 やがて二人は結婚することになります。

林さんは、活動の範囲や出会う人々が急速に広がるようになり、2014 年にひきこもり当事者の声を伝える一般社団法人「ひきこもりＵＸ会議」を設立。代表として、専門家や支援者だけではない、当事者視点の支援のあり方を精力的に提案・発信しています。

今月の学習会は、林さんの講演やテレビ報道などで語られてきた自身の体験をビデオ視聴しながら、それぞれのご家族のありようと重ね合わせつつ、自由な意見交換の場にしたいと思います。　（K）

・日時：10 月 26 日（土）13：30～　菜の花ホール（館山市北条 1735）

ビデオ視聴：「いま、見つめなおす『ひきこもり』のこと」

講師：林　恭子（はやし　きょうこ）

高校 2 年で不登校、20 代半ばでひきこもりを経験。信頼できる精神科医や同じような経験をした当事者たちと出会い少しずつ自分を取り戻す。2012 年から、“当事者発信”を開始し、イベント開催や講演、研修会の講師などの当事者活動をしている。現在、一般社団法人ひきこもりＵＸ会議代表理事。他、新ひきこもりについて考える会世話人、ＮＰＯ法人Ｎｏｄｅ理事、一般社団法人Ｐｏｌｙｐｈｏｎｙ理事などを歴任

著書に『ひきこもりの真実――就労より自立より大切なこと』（ちくま新書）がある。

・フリートーク

ビデオについての感想、意見交換など、小グループで語り合います。

※ご参加は無料、ご予約不要、入退室も自由ですのでお気軽にお越しください。